

# アポイント



ドクターのリレー講座  
脊椎脊髄外科について  
整形外科 医長  
中山 敬太

事業長就任の  
ご挨拶

Vol.83  
2022.4

「輝く未来」医事外来一課 石塚理恵



検査に関わる  
最新トピックス！

- ・臨床検査科がISO15189を取得
- ・最新技術を搭載したCT装置を導入



クローズアップ!!  
医療ソーシャルワーカー

- 新任挨拶
- 病院のまわりを探検しよう！  
「ノバホール」



「ふと、足を止めて」 介護・医療支援部 小谷野智子



## 事業長就任のご挨拶



病院長 こうの もとつぐ  
河野 元嗣

2022年4月1日付けで病院長を拝命いたしました、河野元嗣と申します。当院は1985年に開催されたつくば科学万博に備えて、大規模イベント(mass gathering)に伴う多数傷病者に対応できる救急病院として開院しました。

その後、がん、研修、災害などの政策医療を担う病院として機能を充実させてきました。私は当院開院の年に医師免許を取得したので、開院当初からの発展経過を、病院の近くからこの目で見届け、病院職員として内部から実体験してきました。

開院以来の37年間でわれわれを取り巻く医療の構造は大きく変化しました。患者さんの背景は世界一速く進む少子高齢化に伴い、様々な基礎疾患を有する患者さんが社会に溶け込みながら健康寿命を享受する時代となりました。医療機関は機能分化と集約化により効率的な医療を提供することが求められています。当院の特色である機動性の高さを活かして地域の皆様に高度な医療を提供するとともに、地域の病院や診療所と連携して、皆様の健康維持向上に寄与したいと考えております。

地域の皆様のご協力をご支援をいただけますれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



つくば総合健診センター  
所長 ますざわ こういち  
増澤 浩一

本年度より健診センター所長を拝命致しました増澤と申します。

当施設は小野、内藤所長のもとで、「当日の結果説明」や「受診後のきめ細かいサポート」をはじめとした、当施設が誇る取り組みを日々省みながら、良質な健診施設として地域の皆様と共に歩んでまいりました。

昨今の健診をとりまく環境は以前と異なってきており、「リキッドバイオプシー」等の網羅的ながん検査の登場などから、今後は健診の主な役割が病気(生活習慣病等)を未然に防ぐ、いわゆる「一次予防」にシフトしていくものと思われま。

幸い当施設にはそれに対応する地盤が十分あると考えておりますので、健康増進センター(ACT)での専門的なサポートも活用しながら適切に業務を行っていきたくと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



在宅ケア事業長  
いしかわ ひろいち  
石川 博一

このたび2022年4月1日付で在宅ケア事業長を拝命しました。専門は呼吸器内科ですので、これまで高齢の方に接する多くの機会をいただけてきました。日本はさらなる超高齢化を迎える社会構造となっており、多彩な社会背景の中で医療機関のみならず地域全体で医療を考える必要性が高くなっていますので、今後も在宅ケアの役割は大きいと考えます。

地域ニーズに対応し、訪問看護事業、居宅介護支援事業を継続させていただくと同時に、新型コロナウイルス感染症流行が続いておりますので、安心して必要なサービスをお受けいただけるような体制の構築に努力したいと思っております。

これからも皆様のご指導ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

これから皆様のご指導ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



## 検査に関わる最新トピックス！



### 臨床検査科がISO15189を取得！

「ISO15189」とは、臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を提供するものとした国際規格です。

2020年1月から、およそ2年に渡る準備および2回の審査を経て、2022年2月10日、当院の臨床検査科は、「ISO15189」を取得しました。

検査の技術そのものに加え、その管理方法が適切であるかを確認する規格で、取得により、以下のようなメリットを得ることができます。



#### 1 国際的に通用する検査の証明

ISO規格は、スイスにある「国際標準化機構」という非営利法人が立案・制定した国際規格です。「ISO15189」の取得は、当院の検査が国際的に通用する検査であることの証明となります。

#### 2 業務の標準化

検査機能に適した組織を整え、日々の業務内容を明確にし、文章化することにより、検査の安定性・安全性が保たれます。また、検査スタッフが効率的に業務を進行することができ、スキルの向上にもつながります。

#### 3 がんゲノム医療連携病院認定の要件

がん遺伝子の検査情報によって治療を行う「がんゲノム医療」。当院は、「がんゲノム医療」を可能にするため「がんゲノム医療連携病院」の認定取得を目指しています。「がんゲノム医療連携病院」の認定には、「ISO15189」の取得が望ましいとされています。

今後も「ISO15189」認定を継続維持し、地域の皆さまに正確かつ安全な検査を提供できるよう努めてまいります。

### 日本で3台目！

### 最新技術を搭載したCT装置を導入し、患者さんの負担を軽減へ

CTとは、Computed Tomography(コンピュータ断層診断)のことで、皆さんも一度は検査を受けられたことがあるのではないのでしょうか。

この度当院では、日本で3台目となる最新鋭のCT装置(Revolution CT Apex)を導入し、2021年11月より稼働しました。

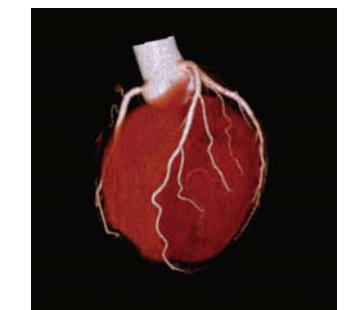
このCT装置には、AI技術を用いた画像再構成法や、新時代の撮影方式(デュアルエネルギー技術)が搭載され診断能が向上しました。1回の撮影は最高で0.28秒になり心臓の周囲など動きのある場所を鮮明に描出することができる上、患者さんに息を止めてもらう時間を大幅に短縮することができます。

これらの技術を用いることで高画質と被曝低減を両立させ、患者さんの負担が少なく質の高い検査が提供できるようになりました。

引き続き、放射線技術科では高品質な検査を提供できるよう努めて参ります。



Revolution CT Apex



撮影した心臓





# ドクターのリレー講座



## 脊椎脊髄外科について

整形外科 医長

なかやま けいた  
中山 敬太



### 脊椎脊髄外科とは

整形外科は頭部以外の筋骨格疾患をすべて扱う守備範囲の広い診療科です。当院は、高難度手術を取り扱う施設で、より専門的な診療を行うため、部位別に専門分野(脊椎脊髄病外科、手の外科、股関節外科など)をもち、診療を行っています。

今回は私の専門分野である脊椎、脊髄疾患について説明していきます。(図1:脊椎、脊髄の構造)

### 脊椎脊髄疾患とは

脊椎脊髄疾患とは文字どおり脊椎、脊髄に問題が起こり生じる疾患であり、実はこれだけで何千もの疾患があります。その中でも当院では主に救急車やドクターヘリで運ばれてくる重度な脊椎外傷、脊髄損傷や、かかりつけの先生方に保存療法をしていただいても改善しないような変性疾患、変形が高度に

なってしまった疾患、あるいは内科の先生方よりご紹介いただく感染や腫瘍に対する手術治療を取りあつかっています。

### 脊椎脊髄外傷

#### ①脊髄損傷

脊髄を損傷してしまうと損傷した場所にもよりますが、手足の麻痺だけでなく排泄(排尿など)、呼吸、心臓の動きなどの障害が生じます。最近の東京パラリンピックでも脊髄損傷後のアスリートが多く出場されていたことからご存じの方も多いと思いますが、脊髄を一旦いためてしまうと回復は難しく、ノーベル賞を受賞した山中先生のIPS細胞をはじめ、様々な研究がされていますが、現在の科学では脊髄を回復させる方法は確立されていません。

ただ、脊髄損傷により麻痺がおこってしまった患者さんも超早期に手術をすることにより改善する可能性があるとの報告もあり、患者さんの全身状態などと相談しながら可能であれば早期の手術も行っています。

#### ②脊椎骨折

脊椎の骨折で、まず思い浮かぶものとしてはCMでも取り上げられていた高齢の方の「きついたら骨折」と呼ばれる圧迫骨折ではないでしょうか。こちらに関しては安静やコルセット、薬などで改善する場合も多く、必ずしも入院や手術が必要なわけではありません。

しかし、転落や交通事故などで背骨が破壊されてしまうような高エネルギー外傷と呼ばれるタイプの骨折に対しては、早期の手術が勧められています。脊椎の中には脊髄が走っているため、骨折した瞬間に麻痺にならなくても徐々に麻痺が起こってくるためです。また、以前は骨がくっつくまで数か月寝たきりで過ごす治療方法もありましたが、骨が曲がってくっついてしまったり、寝たきりになっている間に不幸にも肺炎にかかるなど、予後が良くないことも多くあったため、最近では、できるだけ早期に手術をし、できるだけ早く体を動かせるような治療をしています。

以前は大きく展開しないとできなかった手術自体も近年進化しており、小切開で可能な経皮的スクリュウを用いることによって、これまでと比較するとダメージが少ない手術が可能となっています。

### 変性疾患

#### ①腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症

腰椎の中を走っている神経を椎間板や靭帯、骨などで圧迫されると足に激痛が走ったり、間欠性跛行かんけつせいはいこうといって長い時間歩けなくなるなどの症状がおきます。痛みだけであれば、まずはかかりつけの先生による薬やリハビリで良いのですが、日常生活が難しいぐらいの痛みや歩行困難、さらには足に力が入らなくなってしまうような場合には、手術が必要になることもあります。そのような場合は、かかりつけの先生か

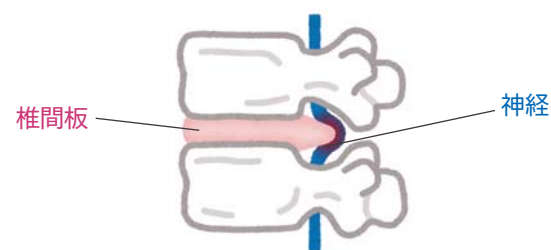
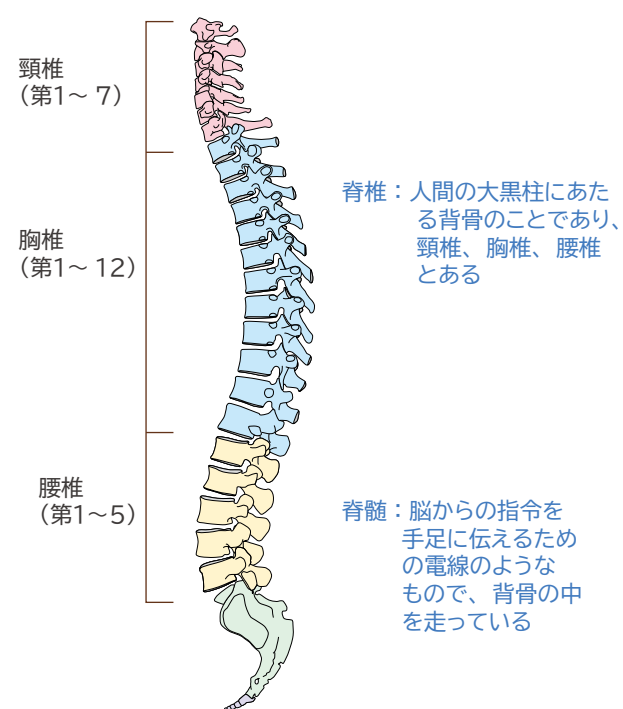


図1:脊椎、脊髄の構造



ら当院にご紹介いただいて、手術をさせていただいております。

手術は顕微鏡を用いた除圧術により、神経を圧迫している椎間板や靭帯を取り除く方法や、すべり症などの背骨が不安定な方や変形が高度な方に対しては金属を用いて固定する椎体間固定術という方法もおこなっています。

椎体間固定は、背骨の横側から固定するLLIF(腰椎側方椎体間固定)の技術が発展し、側腹部を約5cm切開するだけでできるようになりました。この技術を用いることにより、出血量の減少や術後の痛みの軽減など、早期の社会復帰ができるようになりました。

術式にはXLIF(腰椎側方椎体間固定術)とOLIF(腰椎前外側椎体間固定術)の2種類があり、当院は、OLIF: Oblique Lateral Interbody Fusionという術式で脊椎脊髄病学会より茨城で初めてfaculty(教育)施設に認定されました。

#### ②頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症

頸椎の中を走っている神経を圧迫されることによって、腕の痛みやしびれ、手の使いづらさや歩行困難などの症状がおこります。軽い痛みやしびれであれば薬などで良いのですが、うまく手が使えなくなったり、歩くのが難しくなると手術が必要になる場合があります。

#### ③側弯症

思春期の方の背骨が彎曲してきてしまう疾患で、当院では、装具療法から手術療法まで行っておりますので、ぜひご相談ください。

### 最後に

脊椎脊髄病外科は日進月歩であり、ひと昔まえでは到底治療ができなかった患者さんも最近の手術療法の進化によって、治療可能な場面が増えてきました。これからもより高い技術を習得し、多くの患者さんの役に立てるように精進してまいりたいと思っております。





クローズアップ!!

# 医療ソーシャルワーカー

病院で治療が必要になると、生活と治療の両立には、様々な悩みや不安が出てくる場合があります。そんな時、病院で相談することができるのが、医療ソーシャルワーカーです。医療ソーシャルワーカーは、社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格をもつ、社会福祉の専門家で、患者さんやご家族の心配事をお聞きし、必要な情報を提供したり、安心して治療が受けられる方法を一緒に考えます。

## 治療にかかわる費用

病気になって治療が必要になると、ただでさえ病気に対する不安がある中、医療費についての不安も患者さんやご家族の負担となることがあります。そんな時、治療費の負担を軽くすることができる制度や手続きの方法を説明し、不安を和らげ、時には方策を一緒に考えて患者さんに寄り添います。

私たちが サポートします!!

## 仕事と治療の両立

仕事は生活の糧だけでなく、生きがいとしても大切な生活の一部です。今、仕事と治療の両立に向けた体制整備が国をあげて進んでおり、「完全に治ってから」ではなく「治療をしながら」仕事ができる環境が整ってきています。患者さんが早まって退職をする前に、両立の道を一緒に考えていきます。

高額療養費制度の手続き方法を知りたい。

医療費はいくらかかるの？払えなかったらどうしよう？

限度額適用認定を使うには？

治療費以外にもお金がかかるの？



医療ソーシャルワーカーの皆さん

時短やテレワークについて会社と話し合いたいが・・・

仕事に復帰するか辞めるか迷っている。

休職したら、傷病手当はもらえる？

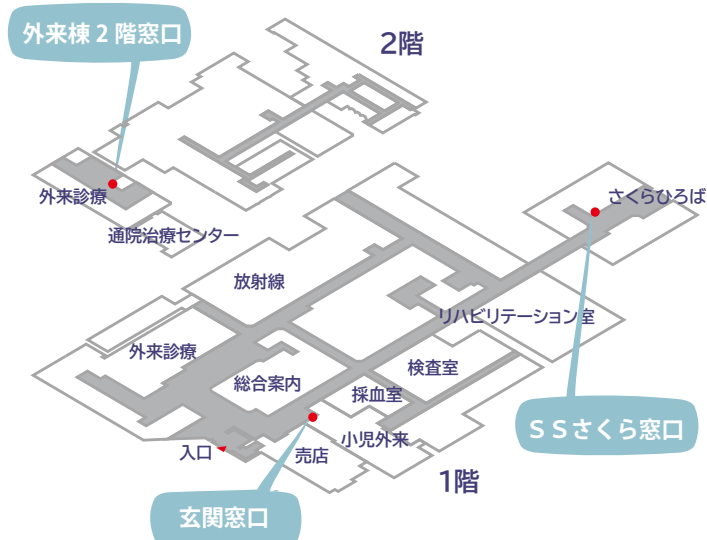
抗がん剤の副作用で仕事に支障が出てしまうのでは？



院内には3ヶ所の窓口があり、医療や生活・福祉の相談、緩和ケア・セカンドオピニオンの受診予約や相談、病院に対する要望やご意見などをどの窓口でも受け付けます。



窓口以外でも、看護師や病院職員にお伝えいただければ、医療ソーシャルワーカーが対応いたします。



## 退院後の介護

退院してからの生活で介護が必要になった場合、患者さん本人はもちろんそのご家族も仕事と介護を両立するための不安が生じることがあります。介護保険は、介護が必要な方に介護サービスを提供する国の保険制度です。介護保険のしくみや手続き、要介護度によって受けられるサポートなど、様々な情報を患者さんにご家族に提供し、退院後の介護生活への不安を和らげるサポートをします。

介護保険を利用するには、どうすればいいの？

介護が必要だけど見る自信がない・・・

どんなサポートが受けられるの？

介護保険のしくみがわからない・・・



029-858-5377

9:00~17:00(日・祝日除く)



## 新任挨拶



副院長  
酒井 光昭

副院長および茨城県地域がんセンター長を拝命しました。医療安全管理も引き続き担当します。ポストコロナの時代が希求する高度急性期医療の在り方を多角的に考察しながら、質の高い安心・安全な医療を提供することによって、地域の皆様に貢献できるよう努力して参ります。



副院長  
仁科 秀崇

このたび副院長を拝命いたしました。組織としては職員に愛される病院であること、患者さん、地域の先生に信頼される病院であること、そして個人としては大切な友人との約束を実行していくことを信条として努力してまいりますのでよろしくお願いたします。

■ 診療科長 消化器内科  
浜田 善隆

■ 診療科長 腎臓内科  
内田 篤志

■ 診療科長 消化器外科  
松村 英樹

■ 診療科長 臨床研修科  
廣瀬 由美

■ 診療科長 脳神経外科  
原 拓真

知ってた？

客席を満たす  
豊かな響き

# ノバホール

画像提供：つくば文化振興財団

## 病院のまわりを探検しよう！



当院から南へ徒歩約20分、「ノバホール」は、つくばセンタービルの一角を占める、国内有数の音響効果を持つコンサートホールです。

建築家・磯崎新氏により、ウィーンの代表的ホール「ムジークフェライン」を模して設計されました。

今では、音響的に優れたホールは日本全国にみられますが、1980年代前半は音質を重視した設計思想のホールはそれほど多くありませんでした。「ノバホール」はその先駆的存在で、アンプを使わず舞台からの音が拡散できる技術を駆使しています。左右の壁面には残響可変装置が組み込まれており、ステージパフォーマンスに合わせた残響時間に調節することができます。

デザイン性に富んだ建築と豊かな音の響きで、時には心を満たしてみたいはいかがでしょうか。

### ■ あゆみ

- 1983年 「ノバホール」開館
- 1984年 第25回建築賞受賞(BCS賞)受賞
- 2011年 「小ホール」開館
- 2013年 ノバホール開館30周年記念公演
- 2019年 つくばセンタービル設計者 磯崎新(建築家)プリツカー賞受賞

左右壁面のルーバーが  
残響時間可変パネルです。



やさしい光あふれるホワイエ



ステージからみた大ホール



このホールは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠であるウィーン楽友協会ホールと同様の「シューボックス型」の音響装置と、残響可変装置を備えていることが魅力です。

当弦楽合奏団も創立以来34年間、毎年ノバホールで演奏会を開催していますが、いつもこのホールの音響のよさに助けられています。

弦楽合奏団“アンサンブル・ベルデ”を主宰する  
つくば総合健診センター 伴野悠士先生



公益財団法人 筑波メディカルセンター

筑波メディカルセンター病院

Tsukuba Medical Center Hospital

〒305-8558 つくば市天久保1-3-1

TEL 029-851-3511

発行人 病院長 河野 元嗣

発行日 2022年4月吉日

E-mailアドレス:hp@tmch.or.jp

ホームページ:http://www.tmch.or.jp/

UD  
FONT

